

2011年6月4日（土）マレビト・ライブ vol.2

「N市民 緑下家の物語」②

公園で、兄の陽から地面に引きずり倒されたN市民緑下稲光は、あいかわらず何の変哲もない孤独な日々を送っていた。

陽の恋人マリーから、稲光は虹見江波（にじみえなみ）という女性を紹介される。出会った最初の日に、二人は稲光のアパートの部屋で一夜をともにし、江波の表現をかりれば「ものすごいセックス」をしたのであった。しかし、その夜のことを稲光はまったく覚えていなかった。稲光が言うには、すべては次男兄さんが自分の身体を使って行為したことであった。

それから数日後（2011年6月4日）虹見江波は稲光の部屋に二度目の訪問をする。そのとき彼は「N市民」という小説を書き始めていた。

一方、陽はボスからもらった「N市民に告ぐ」という特殊な広報活動の仕事の合間に、ハマノ町にあるマリーの居酒屋ミックを訪れる。そこで、陽のファンという男から声をかけられる。陽は、その男から世直しのための仕事を依頼される。

N市を見下ろすビルの屋上には、夢遊病者のような女が佇んでいる。長女のユミである。彼女は、誰のものとも知れぬ遠い日々の記憶を一人延々とつぶやいていた。それは、まるでこの街で命を失ったものたちへの追悼文のようでもあった。